

異なる多様性をもつ他者の意見が 意見変化やアイデア生成に及ぼす影響

1632005 荒井武蔵

指導教員：山崎治 准教授

1. はじめに

近年、研究活動や企業における新規事業・サービス企画、開発など、様々な場面で新規で創造性のあるアイデアを生み出す力が求められている。

清河・鷺田・植田・Eileen(2010)は、創造的なアイデア生成を促進するためには、人の主観的な関心や注意といった内的な制約を緩和させることが重要であり、その有効な手がかりとして、他者の意見を外的な情報として提示する方法を挙げている。

その一方で、他者の意見を外的な情報として提示することから、それらの情報に固着し、新たな制約となることで、かえって自分の考え方の視野を狭めてしまうことも考えられる。また、他者意見の提示の仕方は、アイデアの質を高める方向にも低める方向にも働かうことが考えられる。この違いは、提示される他者の考え方にに関する特質や提示のされ方により生まれることが予想され、他者の意見に含まれる「多様性」の違いが重要な要因であることが考えられる。

2. 目的

本研究では、様々な意見が想定できる意見記述課題を設定し、提示される他者の意見に含まれる多様性の違いが、自身の意見変化やアイデア生成に及ぼす影響を検証し、創造性を促進する有効な他者意見の活用方法を検討する。

3. 実験 多様性の違いにおける影響

「教育における新しいメディアの利用」として賛否の意見を求める課題を通して、提示する他者意見に含まれる多様性の違いが、その後の意見変化やアイデア生成に及ぼす影響を調査した。

3.1 方法

実験参加者： 本学3・4年生27名がグループ別もしくは個別で実験に参加した。

実験計画： 要因として、提示する他者の意見に含まれる多様性を上げた。意見の「総論の一致」「理由の一致」「賛否」に注目し、多様性を操作した。これにより、統制条件となる「提示なし」を含めた7水準を設けた1要因7水準参加者間計画で実験を実施した。

材料： 「教育における新しいメディアの利用」に関する意見を求める課題として「意見記述」「再考記述」「アイデア記述」の3つの課題を選定し、自由記述の回答フォームをリアルタイム評価システム

「REAS」を用いて作成した。多様性の異なる他者意見として過去に収集されたレポート課題の回答を参考に、「総論の一致」「理由の一致」「賛否」を操作することで、それぞれ10人分の意見をまとめたA4サイズ2ページ分のPDFを全6パターン作成した。

手続き： はじめに、各参加者に指定したURLに個人のPCもしくはスマホのブラウザでアクセスしても

らい、課題1の「意見記述」課題に従い、回答フォームへの回答を記述してもらった。次に、多様性を操作した10人分の他者意見の提示として教示文末につけられたリンクにより、他者意見が記載されたPDFへアクセスするよう指示した。ここで参加者には10人分の他者意見は読み飛ばさず、すべての意見に目を通してから以降の課題に進むように教示した。なお、統制(提示なし)条件の場合は他者意見の提示を行わず、以降の課題に直接進んでもらった。その後、参加者には提示した他者意見をもとに、課題2として「再考記述」課題への回答、さらに課題3として「アイデア記述」課題への回答を行ってもらい、実験を終了とした。

3.2 結果

記述された文章内容の意見変化の大きさを、文章内容における評価項目(全6項目)に対して評価した。その結果、「具体性」と「一般性」の項目において、評価データの中央値、最大値、最小値が最高得点であった提示パターンがすべて多様性の高い条件という結果となった。以下に「具体性」の項目における評価結果と提示パターンの比較を示す(図1)。

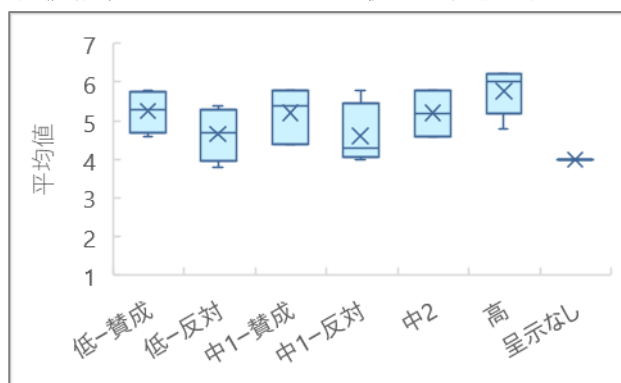


図1: 「具体性」の項目における評価結果

また、全6項目中5項目の評価項目に対する評価結果の中央値が最高得点であった提示パターンが多様性の高い条件という結果となった。

4. まとめ

本実験では、多様性の高い他者意見の提示により、意見変化に伴う文章内容の質の向上が見られた。しかし、アイデア生成におけるアイデアの質を向上させる効果は見られなかった。原因として、多様性を低く設定した他者意見であっても、細かな内容で見ると多様性のある情報として捉えられた可能性や、課題を一連の流れとして行ったことで提示された他者の意見を自身の意見に十分に反映しきれていなかったことが考えられる。

参考文献

清河幸子・鷺田祐一・植田一博・Peng Eileen (2010). 情報の多様性がアイデア生成に及ぼす影響の検討 認知科学, 17(3), 635-649.